

小林 彩香

臨床検査学科 准教授

臨床検査技師、細胞検査士、修士(保健学)

研究に
じっくり取り組める
理想の環境!!



＼ こんな研究やってます!! /

細胞検査士の視線分析により 教育プログラムの開発をめざす!

細胞診検査は、採取した細胞を顕微鏡で見て、細胞の数や異常細胞の有無を視覚だけで調べるもの。細胞検査士は約1,000個もの細胞が存在するスライドを1日100枚前後検査します。短時間で正確な検査を行うには熟練の技が必要です。しかし検査士個人の経験値に委ねられた検査であるため、技術伝承が十分に確立されていない現状があります。そこで、アイトラッキングという目線の計測器を使用して熟練者と初心者の視線を分析して比較。その結果、初心者は細胞をひとつずつ目で追っているのに対し、熟練者は周辺視も使ってスライド全体をぼんやりと見て異常を発見したら注視していることがわかりました。

今後は熟練者の視線の動きをフローチャートにするなど可視化し、効率的に検査技術を高められる教育プログラムを構築したいと考えています。さらに将来的にはAIを導入し、検査標本のスクリーニング補助機能や、見落としを防ぐエラー通知なども開発したいです。本学の臨床検査学科には細胞検査士をめざすコースもあるので、私の研究成果を学生の育成にも役立てられると期待しています。森ノ宮医療大学はさまざまな研究に取り組む先生がいる、研究者にとって刺激的な環境です。私はMINCLにも所属していて、ミーティングに参加することも研究の励みになっています。

現在の視線分析による研究成果を、 他分野にも活用できれば。

細胞検査士の視線分析の研究成果は、尿検査や血液検査など他の顕微鏡を使用した検査にも活かせるかもしれません。他分野の教育にも発展できれば嬉しいです。また、臨床検査技師の勉強法にも活用して国家試験にも役立てるなど、いろんな分野で視線分析を試みたいです。



RESEARCH STORY



2008

臨床検査技師の免許取得

幼い頃、病弱で入退院を繰り返していたなかで、身近な医療職だったのが検査技師。臨床検査技師として病院に勤務しながら、2012年には細胞検査士の資格も取得。

2016

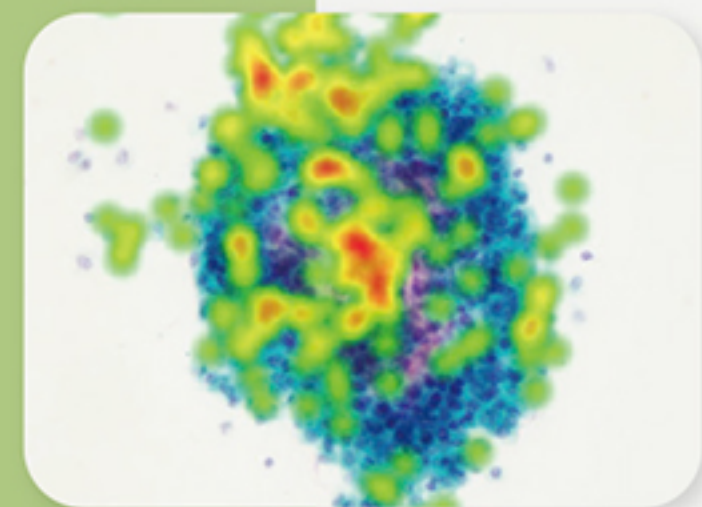
森ノ宮医療大学に入職 大阪大学大学院にも入学

大学院では子宮内膜癌や肺腺癌における発現分子の解析を行い、癌細胞について研究。

2018
2020

2度の出産で研究を中断 育児と両立できる 新たな研究テーマを模索

出産が重なり、研究活動が休止状態に。育児と両立できる研究を模索し、現在の研究に辿り着く。



2022

細胞検査士の育成になる 視線分析の研究を開始

研究活動には焦りやストレスが大きな障害。森ノ宮医療大学の上司や同僚は、成果を急がず温かく研究を見守ってくださるので、納得できる研究ができることがありがたい。